

特定非営利活動法人nature works

大阪北部の生態ビジュアル博物館(課題)の発行と配布、セミナー実施

正式名「絵で観る北摂の水辺 生態ビジュアル圖館」

発行と配布、セミナーによる一般への無償配布



生態ビジュアル圖館(B5版・44ページ)

助成区分	植樹	環境保全	調査・研究	教育・啓蒙
80%	500部配布	配布先満足度100%	活動の全体目標に対する達成度	98%

活動目的

子どもたちは理科の時間で多少は学ぶが、大人たちにはその機会がほぼない。『大人が読んで・見て・知るための読本図鑑』によって、生物多様性を考え、人と生き物の繋がりや関わり、人が自然に影響していること、自らができる地域環境へのプラスの考えを深め、育める『家族で楽しむための教育・啓発ツール作成』事業。

活動内容

当会では12年に渡り、専門家・学識者の助力のもと、描き続けた淀川水系の生物細密画300種以上を保有。また、生態調査時に撮影した希少生物の画像もあり、この中から淀川水系と大阪北部の希少生物・天然記念物を主題に、その生態・生活史と人との関わりを読本的記述を中心とした『大阪北部のいきもの・ビジュアル博物館』を完成させ、自治体・公益団体・教育機関を中心に配布。また等団体に開催するセミナーで一般に広く配布し、大阪北部の内水面生態系と生物多様性を広く深く考える機会を作る。

成果

当初は8月初旬に完成予定であったが、精度を求め、また新規の図版制作、文献の精査と学識者の意見を反映する中、完成が9月下旬となったため、セミナー・ワークショップが11月以後となったが、岐阜大学博物館・WWFジャパンを始め、国内で有数の機関への配布を先行して行なった。作画協力者、記述執筆・編集スタッフが関係するじちたい・教育機関への配布。以後、等団体に主催する大阪府下じちたいでのセミナー・ワークショップでの活用で、本事業は100%の成果となる。また、当NPOが目指している「安威川水系・大博物図鑑200ページ」構想の礎が完成したと自負している。

新規に描いた図版(一部)▶



工夫した点

通常、生物図鑑は生態の写真・図版に特徴・生活史などを完結なスペックとして掲載するが、本企画では生態・生活史にまつわる様々な四方山話、人との関わりなどを記載。スペックもかなり専門的な部分を記述することで、やや高度な読み物にしあげたこと。図鑑ではなく、博物館を巡覧する想定にしていること。全てを細密画で構成していることが、他に比類しない内容になっている。

今後の課題

大阪北部、特に最も広域を流れる安威川水系とその周辺に生息する動植物は多種多様で、天然記念物はもとより絶滅危惧種など希少生物も多いが、その全てを調査し終えていないこと、地域によっては個体数が激減し、すでに姿を消している。さらに調査と検証を重ね、精度の高い情報と知見、正確な図版と鮮明な画像を蓄積し、成果欄で記した構想達成のための活動を確実に継続していかねばならない。